



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月25日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 日立ハイテクノロジーズ

コード番号 8036 URL <http://www.hitachi-hitec.com/>

代表者 (役職名) 執行役社長 (氏名) 久田 眞佐男

問合せ先責任者 (役職名) CSR・コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 横井 芳人

TEL 03-3504-5138

四半期報告書提出予定日 平成26年8月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	155,043	17.9	13,503	—	13,426	—	9,219	—
26年3月期第1四半期	131,504	△13.7	14	△99.9	457	△95.4	△1,480	—

(注)包括利益 27年3月期第1四半期 10,571百万円 (—%) 26年3月期第1四半期 849百万円 (△83.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	67.03	—
26年3月期第1四半期	△10.76	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
27年3月期第1四半期	482,187		280,857		58.1	
26年3月期	494,934		272,968		55.0	

(参考)自己資本 27年3月期第1四半期 280,253百万円 26年3月期 272,458百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	10.00	—	20.00	30.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	15.00	—	15.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	315,000	8.4	17,200	172.7	17,200	159.3	11,700	226.0	85.07
通期	660,000	3.3	35,000	15.0	35,000	12.5	25,600	42.0	186.13

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	137,738,730 株	26年3月期	137,738,730 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

27年3月期1Q	204,002 株	26年3月期	203,551 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期1Q	137,534,971 株	26年3月期1Q	137,537,677 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)平成27年3月期 第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 当第1四半期連結累計期間の概況	P. 2
(2) セグメント別の概況	P. 2
(3) 平成27年3月期 第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想	P. 3
(4) キャッシュ・フローの状況	P. 4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	P. 5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 当第1四半期連結累計期間の概況

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高 155,043 百万円(前年同四半期連結累計期間(以下、前年同期)比 17.9%増)、営業利益 13,503 百万円(前年同期比 967 倍)、経常利益 13,426 百万円(前年同期比 29 倍)、四半期純利益 9,219 百万円(前年同期は 1,480 百万円の四半期純損失)となりました。

(2) セグメント別の概況

電子デバイスシステム

エッチング装置は、大手主要顧客向けが好調であったため大幅に増加しました。

測長SEMは、受注状況は厳しいものの、前年同期と比べメモリ投資が堅調に推移したため、増加しました。チップマウンタは、中国市場における設備投資が活発化し増加しました。ダイボンダは、スマートフォンを中心としたモバイル関連機器向けの設備投資が堅調に推移し、微増となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 34,641 百万円(前年同期比 62.7%増)、経常利益は 8,053 百万円(前年同期比 577.1%増)となりました。

ファインテックシステム

FPD関連製造装置は、高精細化改造投資を取込み、微増となりました。ハードディスク関連製造装置は、スマートフォンやタブレット端末等のモバイル関連機器の市場伸長によりパソコン需要が低迷し、減少しました。また、ファクトリーオートメーション関連装置は、事業が一部立ち上がってきたことにより、微増となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 1,235 百万円(前年同期比 0.4%増)、経常損失は 559 百万円(前年同期は 1,996 百万円の経常損失)となりました。

科学・医用システム

科学システム(分析装置・電子顕微鏡)は、国内においては市場環境に回復傾向が見られるものの、消費税率引き上げによる影響などのため、ほぼ横ばいとなりました。医用分析装置は、欧州市場の回復ペースが鈍い中で、新興国市場が堅調に推移したことと、米国市場における生化学・免疫分析装置と検体前処理システムのパッケージ販売等により、増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 38,787 百万円(前年同期比 33.1%増)、経常利益は 6,384 百万円(前年同期比 270.9%増)となりました。

産業・ITシステム

産業ソリューションは、需要が緩やかに回復している自動車部品自動組立システム及び国内を中心に堅調に推移している太陽光発電関連部材により、微増となりました。

ICTソリューションは、車載用ハードディスクドライブ及び通信用機器を中心に横ばいとなりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は 17,364 百万円(前年同期比 1.4%増)、経常損失は 943 百万円(前年同期は 890 百万円の経常損失)となりました。

先端産業部材

自動車・輸送機器関連部材は、米国と中国市場を中心に引き続き堅調に推移しました。エレクトロニクス関連部材は、スマートフォン関連の強化ガラス等の部材が中国向けに伸長したものの、その他電池等の部材が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は64,437百万円(前年同期比0.4%増)、経常利益は543百万円(前年同期比10.9%減)となりました。

(3)平成27年3月期 第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想

世界経済は、欧州全体では、3年ぶりにマイナス成長から脱すると予測されますが、南欧諸国での景気低迷が長期化するなど、回復のペースは鈍いと思われます。また、中国をはじめとした新興国は、引き続き緩やかに成長すると予想されます。一方、米国では、金融緩和の縮小の影響が懸念されるものの、景気回復は加速すると見込まれます。消費税率引き上げによる影響が懸念された日本では、公共投資の前倒しの効果も発揮され、弱いながらも景気回復が持続するものと見込まれます。

当社を取り巻く事業環境は、半導体製造装置市場では、引き続きスマートフォンやタブレット端末などのモバイル関連機器市場向けの先端ロジック・メモリー投資が堅調に推移しておりますが、投資時期など今後の動向に不透明な部分も見込まれます。科学・医用システム関連市場は、科学システムにおいては、民間需要の回復が予想されます。医用システムにおいては、欧州市場の回復は弱いものの、中国等新興国市場は堅調に推移するものと思われます。産業・ITシステム、先端産業部材では、国内企業の設備投資回復や新興国市場の緩やかな成長の中、産業インフラ、社会インフラ、自動車・輸送機器等の分野への投資は今後も拡大していくものと予想されます。

なお、ファインテックシステムは、コア技術を活かした社会インフラ事業を主力事業として、業容拡大を進めていきます。

以上により、当社の第2四半期連結累計期間の連結業績予想は、売上高315,000百万円(前年同期比8.4%増)、営業利益17,200百万円(前年同期比172.7%増)、経常利益17,200百万円(前年同期比159.3%増)、四半期純利益11,700百万円(前年同期比226.0%増)としております。

また、通期の連結業績予想は、売上高660,000百万円(前期比3.3%増)、営業利益35,000百万円(前期比15.0%増)、経常利益35,000百万円(前期比12.5%増)、当期純利益25,600百万円(前期比42.0%増)としております。

今後とも、ハイテク・ソリューション事業におけるグローバルトップをめざすとともに、最先端・最前線の事業創造企業として、顧客及び市場のニーズにスピーディーに対応し、業績予想の達成をめざしてまいります。

(4) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より4,308百万円減少し、129,291百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は以下の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権、たな卸資産、仕入債務の運転資金増減による収入の減少、その他の資産・負債の増減による支出の増加、及び法人税等の支払による支出が増加しましたが、税金等調整前四半期純利益が増加したこと等により、前年同四半期連結累計期間(以下、前年同期)に比べ132百万円収入が増加し、1,059百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の償還による収入が増加したこと等により、前年同期に比べ1,011百万円支出が減少し、2,337百万円の支出となりました。

以上により、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合計したフリー・キャッシュ・フローは、前年同期に比べ1,143百万円支出が減少し、1,278百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払額が増加したこと等により、前年同期に比べ887百万円支出が増加し、2,683百万円の支出となりました。

当社グループ財務政策として、業容拡大に伴う運転資金及び研究開発投資・設備投資に対応するための適切な流動性の維持と資金の確保、並びに健全なバランスシートの維持を図りつつ、財務基盤の強化を行ってまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 原価差異の繰延処理

操業度により発生した原価差異に関して、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれる場合は、当該原価差異を流動資産又は流動負債「その他」として繰り延べております。

② 税金費用の計算

当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,548	24,221
受取手形及び売掛金	135,067	121,896
有価証券	1,002	—
商品及び製品	34,930	37,072
仕掛品	36,313	37,942
原材料	3,923	4,065
関係会社預け金	112,139	110,963
その他	31,595	26,985
貸倒引当金	△486	△305
流動資産合計	377,031	362,840
固定資産		
有形固定資産	75,110	76,173
無形固定資産		
のれん	4,075	3,908
その他	8,918	8,664
無形固定資産合計	12,993	12,572
投資その他の資産		
その他	30,115	30,916
貸倒引当金	△315	△313
投資その他の資産合計	29,800	30,602
固定資産合計	117,903	119,347
資産合計	494,934	482,187

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	105,683	98,377
未払法人税等	8,069	4,299
製品保証引当金	2,690	2,746
その他	54,449	45,043
流動負債合計	170,891	150,464
固定負債		
役員退職慰労引当金	224	183
退職給付に係る負債	49,303	49,182
その他	1,548	1,501
固定負債合計	51,076	50,866
負債合計	221,966	201,330
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,938	7,938
資本剰余金	35,745	35,745
利益剰余金	233,402	239,871
自己株式	△334	△335
株主資本合計	276,751	283,218
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,744	6,702
繰延ヘッジ損益	△368	△64
為替換算調整勘定	2,241	1,820
退職給付に係る調整累計額	△11,910	△11,423
その他の包括利益累計額合計	△4,293	△2,965
少数株主持分	511	604
純資産合計	272,968	280,857
負債純資産合計	494,934	482,187

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	131,504	155,043
売上原価	109,766	119,509
売上総利益	21,738	35,534
販売費及び一般管理費	21,724	22,031
営業利益	14	13,503
営業外収益		
受取利息	94	113
受取配当金	73	84
貸倒引当金戻入額	222	78
雑収入	161	83
営業外収益合計	551	358
営業外費用		
支払利息	15	17
持分法による投資損失	12	16
為替差損	—	324
雑損失	80	77
営業外費用合計	108	434
経常利益	457	13,426
特別利益		
投資有価証券売却益	—	3
特別利益合計	—	3
税金等調整前四半期純利益	457	13,430
法人税等	1,851	4,185
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,393	9,245
少数株主利益	87	26
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,480	9,219

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主 損益調整前四半期純損失(△)	△1,393	9,245
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	311	959
繰延ヘッジ損益	△46	304
為替換算調整勘定	1,417	△424
退職給付に係る調整額	560	487
その他の包括利益合計	2,243	1,326
四半期包括利益	849	10,571
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	752	10,547
少数株主に係る四半期包括利益	98	23

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	457	13,430
減価償却費	2,130	2,558
のれん償却額	167	167
引当金の増減額 (△は減少)	△445	△135
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	800	631
受取利息及び受取配当金	△168	△197
支払利息	15	17
持分法による投資損益 (△は益)	12	16
売上債権の増減額 (△は増加)	9,183	12,590
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,840	△4,062
仕入債務の増減額 (△は減少)	386	△6,615
その他の資産・負債の増減額	△3,778	△10,326
その他	23	24
小計	2,943	8,098
利息及び配当金の受取額	182	203
利息の支払額	△9	△15
法人税等の支払額	△2,190	△7,226
営業活動によるキャッシュ・フロー	927	1,059
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	—	0
有価証券の売却及び償還による収入	87	1,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	△3,362	△3,355
有形及び無形固定資産の売却による収入	19	38
投資有価証券の取得による支出	—	△50
投資有価証券の売却及び償還による収入	0	11
会員権の売却による収入	2	18
貸付けによる支出	△95	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,348	△2,337
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△400	—
少数株主からの払込みによる収入	—	70
配当金の支払額	△1,369	△2,741
その他	△26	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,795	△2,683
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,291	△347
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,926	△4,308
現金及び現金同等物の期首残高	123,485	133,599
現金及び現金同等物の四半期末残高	120,559	129,291

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	電子デバイス システム	ファイ ン テック システム	科学・医用 システム	産業・IT システム	先端産業 部材	計				
売上高										
外部顧客への売上高	21,279	1,230	28,749	16,460	63,672	131,390	114	131,504	—	131,504
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6	—	384	667	510	1,567	876	2,443	△2,443	—
計	21,285	1,230	29,133	17,127	64,183	132,957	990	133,947	△2,443	131,504
セグメント利益 又は損失(△)	1,189	△1,996	1,721	△890	610	634	△605	30	428	457

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、間接補助事業等を含んでおります。

② 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)
(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	634
「その他」の区分の損失	△605
セグメント間取引消去	13
社内借入金に対する利子の戻入額	110
その他の調整額(注)	305
四半期連結損益計算書の経常利益	457

(注) その他の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費、営業外収益及び営業外費用であります。

③ 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

①報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	電子デバイス システム	ファイン テック システム	科学・医用 システム	産業・IT システム	先端産業 部材	計				
売上高										
外部顧客への売上高	34,623	1,041	38,501	16,669	63,943	154,778	261	155,039	4	155,043
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17	194	285	695	494	1,686	236	1,921	△1,921	—
計	34,641	1,235	38,787	17,364	64,437	156,463	497	156,960	△1,918	155,043
セグメント利益 又は損失(△)	8,053	△559	6,384	△943	543	13,479	△476	13,002	424	13,426

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、間接補助事業等を含んでおります。

②報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	13,479
「その他」の区分の損失	△476
セグメント間取引消去	8
社内借入金に対する利子の戻入額	94
その他の調整額(注)	322
四半期連結損益計算書の経常利益	13,426

(注)その他の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費、営業外収益及び営業外費用であります。

③報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。